

わが街みどりい

令和8年1月1日
第55号

発行
緑井学区社会福祉協議会
緑井一丁目6-1(緑井駅前サロン内)
(082-876-4360)



緑井学区社会福祉協議会会長 濱本康男

新年あけましておめでとうございます。平素より緑井学区社会福祉協議会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、近年、私たちの住む地域社会では、少子高齢化の進展や一人暮らし世帯の増加に加え、激甚化する災害や新しい感染症の流行が続くなど、予測しがたい出来事に対応を迫られる場面が増えていきます。こうした課題は、行政や専門機関だけでは十分に対応できず、地域に暮らす一人ひとりの力とお互いの協力が欠かせません。「顔の見える関係」「ちょっとした声かけ」「助け合いの気持ち」——これらは地域の安心を支える大きな力となります。社協活動では、皆さまが互いに支え合える仕組みづくりを進め、誰もが安心して暮らせるまちを目指しており、そのための「顔の見える関係づくり」を重視しています。



緑井社協は、広島市の地域支援制度であるLMOに参加して2年が経ちました。7年度もLMOの資金を活用して17の事業を行い、多くの皆様のご参加を得ています。皆さまにこうしたイベントや交流の場に参加いただくことは、世代を超えたつながりを生み、いざという時に互いに助け合う土台となります。小さな声かけや笑顔の共有が、緑井地域全体の大きな力へとつながります。本年も、緑井社協は皆さまと共に歩み、温かい絆を広げていけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(写真は緑井社協の役員・スタッフ)

緑井社協の共同募金活動

7年度、厚労大臣表彰を受賞

緑井社協の「赤い羽根共同募金活動」が令和7年11月12日、東京都内で行われた全国社会福祉大会において市内の団体としては唯一、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

緑井社協は、地域の共同募金活動実施団体として、長年、戸別募金や街頭での募金活動に取り組んできました。これまでも、地域に割り当てられる目標希望額を超える金額の募金を毎年集め、金額面でも安佐南区内25学区社協の中で1位の金額を続けています。(令和6年度実績、区全体12,720,613円、うち緑井地区900,221円)。この背景には、共同募金活動が長年、学区内5町内会の全面的な協力の下、1世帯当たり400円を目安に募金を行う形が地域で受け入れられてきたことがあると考えています。募金は全県で集計された後、緑井地区で集まった金額の約半分は、最終的に緑井

社協の活動費として地元に還元されています。改めて地域の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも赤い羽根共同募金へのご協力をよろしくお願いいたします。

緑井駅踏切 工事中はう回路へ

緑井駅毘沙門踏切の拡幅工事等に伴い、1月6日から3月21日まで、同踏切が全面通行止めになります。工事期間中は、地図のう回路をご利用ください。



LMO活用して地域交流

お気軽にご参加を

社協など地域の各団体が、連携して地域の課題を解決する活動を行う場合、市から様々な支援を受けられる制度がLMO(エルモ)です。緑井社協はこの取り組みに参加して2年目を迎えました。

7年度は、今後実施予定のものを含め17事業を行います。多くの皆さんの参加が「顔の見える地域の関係づくり」につながります。ご参加、お待ちしております。

みどりのハピネスサークル

「障害がある方とその家族の皆さんが、安心して地域で暮らせる緑井に」の理念のもと、今年から緑井



ハピネスサークルを立ち上げました。会の活動内容は、障害について学ぶ講演会、手話講座、福祉施設見学会、情報交換などです。障害の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。毎月1回、第3水曜日の午後1時半から岩谷公園集会所で活動しています。

良き師の話を聞く会

様々な分野で活動している緑井に在住、在勤の「お宝人材」の方に登場していただき、お話をさせていただきます。今年度はこれまで、5月に消化器ガン治療が専門の山東クリニックの山東憲央医師、9月に司会・講師で活躍中の荒木なおみさんのお2人に登場していただき、それぞれ専門の分野のお話に加え、アトラクションとしてギターの演奏や歌声を披露していただきました。



ICTよろず相談会



「スマートフォンやタブレットの操作の仕方が分からない」「こんな画面が出てきたけどどうしたらいいの」—そんな情報機器に関する日常の困りごとを解決するための無料相談会です。対応するのは、ICTに詳しい大学生や地元のボランティア。やさしい対応が好評です。毎月2回、金曜日の午後、駅前サロンで開催しています。

緑井学区お助け隊



日常のちょっとした困りごとを解決するため、社協に登録したスタッフを派遣する有償のサービスです。利用料は1回あたり約2千円(町内会加入者は約1,500円)。草取り、庭木の剪定、電球交換など14のサービスに対応しています。今年度は10件程度の派遣を見込んでいます。お問い合わせは、駅前サロンまで。

7年度は17事業を実施

ご参加お待ちしております

緑井盆踊り大会・緑井音頭

コロナ禍で途絶えていた緑井地区の盆踊り大会が、8月2日、地域の熱意で6年振りに復活しました。再開に当たり、会場をこれまでの小学校校庭から緑井第一公園(日吉公園)に変更。中央の舞台も「やぐら」からトラックの荷台利用に変え、飲食ブースはキッチンカー3台に本格的な料理の提供をお願いするなど、コンパクトな運営に切り替えました。お楽しみじゃんけん大会ではお米などの景品を提供し、最後

まで盛り上がりました。盆踊り大会では、地域の有志の手で作られた「緑井音頭」が、保存会の皆さんにより初披露。子どもから高齢者まで、参加者は振付を見習いながら、楽しく踊っていました。保存会では今後、いろいろな機会をとらえてこの音頭を広く普及、定着させていくことにしています。



鮎つかみ取り大会

8月24日、四丁目緑井第7公園(中道公園)で、各町内会と社協の共催により、子どもたちの夏の思



い出づくりにと「鮎つかみ取り大会」を開きました。当日は公園内に簡易プールを設置して、太田川漁協から運ばれた新鮮な鮎200匹を放流。早速子供たちがプールに入り、歓声を上げながら逃げる鮎のつかみに挑戦していました。

緑井親善グラウンドゴルフ

グラウンドゴルフを通して地域内の交流を図る目的で、今年度から社協と町内会共催のグラウンドゴルフ大会を年間3回開催しています。これまで9月、11月の2回開催し、133人の参加がありました。2回参加した方は「町内会では少人数でプレーを楽しんでいるが、こちらは参加者も多く、副賞が多いので気合が入る」と楽しんでおられる様子。次回は8年3月の開催です。ご参加お待ちしております。



三世代防災ウォーキング

10月5日、八敷福祉会の主催で、歩きながら防災を学ぶ2回目の「三世代ウォーキング」を開催しました。42名が参加し、広島土砂災害から11年を経過し建設が進む長束八木線の工事現場や梅林高架橋を見学したのち、豪雨災害伝承館で講話を聞き、防災について学びました。今回は途中「八木・緑井まちあるきマップ」の説明もあり、災害の恐ろしさや地域の魅力を再発見する良い機会になりました。



ふれあい交流会

第3回の「ふれあい交流会」を、11月3日に小学校で開催しました。内容は、防災体験と健康相談、校庭でのグラウンドゴルフの3本柱で、子どもから高齢者まで350人の参加がありました。健康相談では、今回初めてとなるヘモグロビン測定、BMI測定などに行列ができ、防災体験では防災士の皆さんによる地震体験コーナー、防災グッズの詰め合わせ体験、非常食試食、炊き出し体験が人気を博していました。



他にも、ソフトボール教室、卓球大会・教室、ボウリング大会なども開催しました。今年度の残りの期間には、1月14日に宇那木神社で「緑井とんど祭り」、2月15日に八敷会館で「緑井学習会」の開催を予定していますので、是非、ご参加ください。

緑井小学校創立150周年

11月29日、記念式典で祝う

◆校庭に梅檀を植樹◆

明治8年4月、松原地区の中原芳吉氏宅に緑井小学校の前身となる「観水舎」が開校し、今年、創立150周年を迎えました。11月29日(土)には、緑井小学校体育館で全校児童、教職員、地元関係者らの出席のもと、創立150周年記念式典が行われました。式典では、国歌斉唱、校長挨拶、「緑井地区と緑井小の歴史について」の講話に続き、記念植樹の様子のビデオ上映、児童代表のお祝いの言葉、全児童による嵐の「ふるさと」合唱と続き、参加者全員で150周年を祝いました。式典で高田玲子校長は、「緑井小学校の歴史と伝統の上に、みんなの手で新しい歴史を作っていこう」と呼びかけました。

午後には記念コンサートとして、広島ジュニアマリンバ・アンサンブル、PTAコーラスグループ「コードルチェ」による演奏と合唱が披露されたほか、今

年度完成した「緑井音頭」も保存会の皆さんによって披露され、開校記念祝賀行事に花を添えました。

また、式典に先立ち、11月11日(火)には、校庭の一角に旧緑井小時代からゆかりの深い「梅檀」(せんだん)が植樹され、6年生児童や関係者が土入れを行い、お祝いました。

▶ 緑井小の主な歩み ◀

- 明治8年4月 前身の観水舎、中原芳吉氏宅内に開校
- 明治11年4月 緑井小と改称
- 明治31年1月 中組地区(現四丁目11～14番街区回り)に移転
- 大正12年1月 北校舎新築
- 昭和5年4月 広島県師範学校の代用附属小になり教育実習校に指定
- 昭和9年2月 西校舎新築
- 昭和10年11月 校歌制定
- 昭和20年8月 原爆被災者を校舎に収容し救護
- 昭和41年10月 現在地への移転工事始まる
- 昭和42年9月 新校舎に移転開校
- 昭和56年4月 児童数の増に伴い、梅林小と分離
(100周年記念誌などから作成)

安佐中学校課外活動支援

共同募金活用し、部活備品を寄贈

◆目標配分金の300万円を達成◆

安佐中学校課外活動支援プロジェクト(毘沙門台、安東、大町、緑井の各学区社協で構成)は、赤い羽根共同募金の「地域テーマ募金」制度を活用して、同中学校の課外活動に使用する各種備品(300万円相当)を寄贈しました。この制度は、教育環境の整備のために地域が募金を行った場合、同額を共同募金が拠出して活動を支援する制度です。

令和7年1月から地域で募金活動を始め、3月末までに150万円の目標を達成。その後、県共同募金委員会から同額が助成され、令和7年7月18日、同中学校で300万円相当の備品の贈呈式が行われました。対象は吹奏楽部、女子バレー部、サッカー部など計17部にわたり、生徒や学校から希望のあった楽器やユニフォーム、練習に使用する各種機器が贈られました。

このプロジェクトの緑井地区の担当、岩谷町内会会長の吉岡一司さん(三丁目)は「不安の中でスタートしましたが、徐々に地域の皆さんの理解と協力が

進み達成できました。生徒の喜ぶ顔を見ることができ感謝しかありません」と話しています。

なお、同プロジェクトに対して11月21日、松井一實広島市長から多額の備品の贈呈に対する市からの感謝状が贈られました。(写真)



受賞おめでとうございます

広島県社会福祉協議会会長表彰

花岡 英二さん(中組)

